

授業科目名	クリティカルケア看護特論Ⅲ <i>Advanced Studies in Critical Care Nursing III</i>			担当教員	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	複雑かつ急激に変化するクリティカルな状況の患者の病態生理とそれに伴う管理を、生体侵襲理論を用いて理解し、緊急的な管理および集中的な管理に関する最新のエビデンスから、患者・家族を尊重した高度な看護を見出す				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルな状況にある患者の身体内部で起こる複雑かつ急激な変化を、生体侵襲理論を用いて説明することができる。</li> <li>2. クリティカルな状況にある患者の生命維持に関する緊急処置や集中管理を、エビデンスに基づいて理解し、高度な看護実践を考究することができる。</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回：生体侵襲理論①生体侵襲概要、急性相反応の特徴、Moor の分類、SIRS/CARS (ゲストスピーカー)</li> <li>2回：生体侵襲理論②自律神経系・内分泌系・炎症性・代謝系反応 (ゲストスピーカー)</li> <li>3回：脳神経管理とクリティカルケア①脳卒中における頭蓋内圧管理 (ゲストスピーカー)</li> <li>4回：脳神経管理とクリティカルケア②看護ケアの実際 (ゲストスピーカー)</li> <li>5回：循環管理とクリティカルケア①血圧管理、尿量、輸液の選択、輸血 (ゲストスピーカー)</li> <li>6回：循環管理とクリティカルケア②補助循環、致死的不整脈の管理 (ゲストスピーカー)</li> <li>7回：循環管理とクリティカルケア③看護ケアの実際 (ゲストスピーカー)</li> <li>8回：呼吸管理とクリティカルケア①換気・酸素化・酸塩基平衡の管理、酸素療法 (ゲストスピーカー)</li> <li>9回：呼吸管理とクリティカルケア②気道管理、人工呼吸器管理、鎮静、ウイニング (ゲストスピーカー)</li> <li>10回：呼吸管理とクリティカルケア③看護ケアの実際 (ゲストスピーカー)</li> <li>11回：栄養・代謝管理とクリティカルケア①栄養・代謝(糖、蛋白質)・電解質の管理 (ゲストスピーカー)</li> <li>12回：栄養・代謝管理とクリティカルケア②目標体温管理 (ゲストスピーカー)</li> <li>13回：栄養・代謝管理とクリティカルケア③栄養管理(TPN, PPN, 経腸栄養)時のケア (ゲストスピーカー)</li> <li>14回：外傷管理とクリティカルケア①頭部/胸部/腹部/骨盤/脊椎/多発外傷の管理</li> <li>15回：外傷管理とクリティカルケア②看護ケアの実際</li> </ol>				
学習方法	クリティカルな状況にある患者の状態を生体侵襲という視点から理解し、身体の機能別にその管理と看護を深く追及する。一般的な解剖生理学の知識は必須となるため、事前に計画的に自己学習して講義にのぞむ。内容によっては、講師が勤務する施設での講義を設定する可能性がある。				
オフィスアワー					
テキスト	毎回の講義で提示する				
参考文献	適宜紹介する				
評価方法	授業への参加度(50%)、課題レポート(50%)				